

第 24 回議会報告会 報告書

地 域 名	大屋地域		
年 月 日	令和 5 年 4 月 26 日 (月)	会 場 名	大屋市民センター
開始時間	19 時 30 分	終了時間	21 時 00 分
参 加 数	男性 12 人	女性 1 人	合計 13 人
班 長	足立 隆啓	司 会 者	足立 隆啓
報 告 者	足立 隆啓	書 記	藤原 芳巳
班 員 名	足立 隆啓、藤原 芳巳、淨慶 耕造		
	市 民	対 応	
報告に対する質疑	<p>① メタバースとはどんなものなのか。市がそれを、どうしたいのかよくわからない。</p> <p>② マイナンバーカードの利用について、健康保険証で使えるのは便利だが、それすらよくわかっていない高齢者にとっては使いにくく支援がいる。デジタル化が進むと思うが高齢者に配慮した使いやすいものであってほしい。</p> <p>③ 女性議員が一般質問で公共トイレについて取り上げている。男性議員ではなかなか気づかない目線だと思う。女性の意見をもっと増やすためにも、女性が議員になりやすい仕組みが作れないか。</p>	<p>① メタバースとはインターネット上の仮想空間のこと。市内外からパソコンでアバターとして入る。吉本興業と提携して、「バーチャルやぶ」をオープンし、養父市役所・明延鉦山・天滝などを再現して関係人口・つながり人口を増やしていく取り組みを行っている。</p> <p>② デジタル施策は増える傾向にある。市役所の申請事務が自治協でできる体制づくりも 6 つの自治協で進められている。使う側、特に高齢者への配慮は必要と考えている。</p> <p>③ 現在、定数と報酬について特別委員会で検討しているところで、女性議員を増やすことも要素の一つとして考えている。小野市のように長い努力の結果 40% が女性議員となっているところもある。女性枠を作ることは難しいが努力していきたい。地域でもご協力をお願いしたい。</p>	

	市 民	対 応
意見交換会での質疑	<p>① 人口減少・高齢化の中で、何をするにも人が足りなくなる。人口を増やしたいが、医療・教育なども含め、他市から入ってくる時の特典にはどのようなものがあるのか。</p> <p>② 地域おこし協力隊の現状はどうなっているか。</p> <p>③ 関宮学園は、学校を残すためとして現在の形になっている。大屋もそうなるかもしれない。生徒を増やしたいが、利便性では都会に勝てない。親の働き場所を作るにしても課題は大きい。</p>	<p>① やぶ暮らし住宅支援制度として、多数の奨励金制度がある。高校生までの医療費無償化をはじめ、子育て支援の制度も充実している。新規就農者への支援制度もある。</p> <p>② 現在の地域おこし協力隊員は12名、令和5年度には15名体制にする計画になっている。3年たてば起業して定着するという立て付けだが、養父市は定着率が40%と低い状況にあることが課題である。</p> <p>③ 大屋中の生徒は、現在の71人から5年後には44人となる。大屋小も100人を割り込む。地域を廃れさせないためのアイデアが必要。住民が考え決断する必要がある。議員も活用して一緒に地域づくりを。</p>
その他（提言など）	<p>① 個人広報を配る議員が減っているように思う。多くの議員に議員活動が見えるようにしていただきたい。</p> <p>② 大屋小学校区は、旧大屋町の中心で何を言わなくても整備されてきた。合併してからは目が行き届かなくなっている。議員も大屋にきて身近で考えていただきたい。</p> <p>③ 人口を増やすために、母子家庭を呼ぶとか大学を誘致するとか、即効性のある施策を打つべきだ。</p>	<p>① 新聞折込・ポスティング・郵送など、それぞれの議員が任意で行っている。議員活動を地域の皆さんに知っていただくのは大切なことと思う。</p> <p>② 定期的に大屋を訪れている議員もあるし、呼んでいただければできる限り来させていただく。ともに考えていきたい。</p> <p>③ 大屋は歴史的な文化芸術が残る魅力的なところである。養父市は、池田草庵など子どもがで暮らすのに魅力的な下地もある。この地域にだれに住んでもらうかだ。全国には25万人の不登校児童がいる。教育移住の形を作って呼ぶ道もある。</p>
備考	なし	

議会報告会を実施したので、上記のとおり報告いたします。

令和5年4月26日

報告者 2班 班長 足立 隆啓